



老人性色素斑



境界がわりとはっきりしている黒っぽいシミ。紫外線および皮膚代謝の衰えが原因で、頬骨など、紫外線の当たりやすいところに見える。中年以上に多いが、若年層にも。

肝斑



両頬骨の上あたりに、左右ほぼ均等に現れる帯状のシミで、30~40代の女性に多い。ふちがはっきりせず、もやっと広がっているのも特徴。女性ホルモンの影響で発生するといわれており、体の中からのケアが不可欠。

雀卵斑(そばかす)



鼻を中心に褐色の小さな斑点が広がったように出現。遺伝的なものも多く、子供のころから発生する。紫外線に当たると濃くなったり、さらに広がったりしやすい。

炎症後色素沈着



ニキビや傷、化粧品によるかぶれなど、皮膚に炎症を起こしたあとにできるシミ。肌の細胞増殖でメラニンが多量に発生、年齢や性別に関係なくできる。紫外線ですらに濃くなる。

紫外線が
強くなる
前に...

種類がちがえばケア法もちがう。
まずは“敵”を知ることから。
シミは 春のうちに何とかする

20~59才女性の4人に3人が何らかの「シミ」トラブルを抱えている。

紫外線が強くなる季節はもうすぐそこ。まずは、自分の「シミ」を知り、体の内側からケアを始めよう!

正しいケア法を選んで、
シミの悩みとサヨナラ!

「シミは消えないものだと思いきら
めている人って意外に多いんです
よね。でも、ケア法、治療法が充
実しているいま、大抵のシミは目
立たなくできます」と、内科・美
容皮膚科医の片桐衣理さん。ケア
の効果をきちんと得るには、ひと
つの方法だけではなく、多方面か
ら攻めることが大切だそう。

「実際クリニックでも、ピーリン
グやレーザー治療といった美白の
施術メニューに加え、内服薬を処方
したり、自宅でのスキンケア法
を紹介したり、体の内外から多様
にアプローチすることで成果をあ
げています。そしてもちろん、シ
ミの種類や、できている範囲、深
さなどに合わせて、それぞれに最
適な方法を選択することも大切で
す」

教えてくれたのは



衣理クリニック表参道
院長 片桐衣理さん

内科・美容皮膚科医。女医ならではのセンスで内外美容をサポート。きめ細かく効率的な治療で、美容のプロや女優・モデルにも人気。著書に「片桐衣理のピリオディクススキンケア」(しょういん)。
● 衣理クリニック表参道
港区北青山3-5-30 入来ビル4F
TEL: 03-5786-0077
http://eri-clinic.com